

令和元年度 第2回岩見沢市まちづくり基本条例推進委員会 議事録(要旨)

●日時、出席者等

日時	令和元年12月18日(木) 午後4時00分～午後5時30分
会場	岩見沢市生涯学習センター「いわなび」 2階 研修室6
出席委員等	委員9名
傍聴者	なし
事務局	3名

●議事録(要旨)

1. 開会

2. 委員長挨拶

(米内山委員長より挨拶)

8月6日に条例の社会情勢等についての適合報告と併せまして、基本条例の取り組み状況ということでみなさんにご協議いただきました。今回が二回目ということでございますが、それぞれ事前にお渡しした資料を見ていただいていると思いますので、またみなさんの忌憚のないご意見等いただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

3. 議題

(1) 条例の周知について

(事務局から説明)

広報への特集記事掲載とまちづくり基本条例周知用の小学生向けパンフレットの原稿が出来上がりましたので報告させていただきます。

まず、12月広報での特集記事です。まちづくりパンフレット制作に協力いただいた教育大生のインタビューを交えて、まちづくり基本条例の周知を行いました。また、今までのみなさまからのご意見の中で「委員会の様子を掲載して委員会にも興味を持つきっかけにはどうか」というご意見をいただいておりますので、今回掲載させていただきました。今後も広報を通じて「まちづくり」の活動に興味をもってもらえるような記事を掲載していければと考えております。ちなみに、今回は特集を組んだことにより、FMはまなすへ出演するという機会をいただき、「金生ナイト倶楽部」にて周知活動を行ってまいりました。

次に、小学生向け条例周知用のパンフレットについてです。前回、教育大生が作成してくれたパンフレットへみなさまからご意見をいただき、表紙のバランスやイラストの工夫、掲載している写真の大きさや説明を加えるなど、ご意見を学生に伝え修正いたしました。お気づきの点などお知らせいただければと思います。

(米内山委員長)

広報を読みましたが、簡潔明瞭でわかりやすくなっていると思いました。教育大生の協力があつたことは非常に良かったと思います。特にパンフレットについてはまだ修正可能ということでございますので、前回の意見を反映されてはいますが、さらに良いものにするためにご意見をいただきたいと思ひます。

※パンフレットの「しくみ」「クイズ」頁の表現について修正案をいただく。

(2) 市民活動団体に係る支援について

(事務局から説明)

事前にみなさまへ送付させていただいておりました「市民活動団体に係る支援について」説明させていただきます。岩見沢市総合計画策定の際に平成29年に行われました、まちづくり団体意識調査の結果を抜粋しています。状況といたしまして、各団体では、会員の高齢化や減少、活動資金の確保、後継者不足や広報PR活動を課題としています。そのなかで行政に対しては、活動内容の周知・広報や活動資金の支援、人材育成の支援、情報提供・相談体制の強化を期待している状況にあります。右側の表は、その調査時に把握していた77団体になりますが、あくまでも市が何らかの支援をしていない限り、把握できないというのが現状ですので、実際はもっと多くの団体が活動されていることと思われまます。前回の委員会で市の基本条例に係る取組状況について説明させていただきましたが、岩見沢市の協働の取り組みの傾向としまして、実行委員会などへ加わる人的支援もありますが、どちらかという、ほとんどが団体や町会が実施している事業に対し、補助金などを交付するという財政的支援が多くなっています。そのことに対し、「財政的支援よりボランティアが必要なことや、相談やアドバイスをしてくれる窓口など、人的支援があるといいのと思う場面が多々あった」とお伺いしております。そのようなご意見を踏まえ、様々な活動をされている団体等に、どのような課題が想定され、その課題を解決していくためにはどのような支援が必要になるか、ご意見をよろしく願います。

(米内山委員長)

市民活動団体はこれよりもっと活動されている団体があると思いますが、そういった団体も含めてどのような支援が必要かご意見をいただきたいと思ひます。

(委員からの意見)

人手不足のため中止になるイベントがあります。いつ人が足りないかという、企画は実行委員が数名で何とかするので当日の人員が足りないのです。イベントボランティアバンクみたいのがあって、当日だけだったら手伝いができるというのをコーディネートできる仕組みがあるといいのかと思ひます。

(委員からの意見)

福祉に関するボランティアで車椅子の方を介助するようなことには、社会福祉協議会にボランティアセンターがありコーディネーターがボランティアを派遣しています。それは一部分で、今回の内容はイベント全体のお手伝いできるボランティアの窓口のことだと思ひます。

(委員からの意見)

要になるところがないと難しいので、その要をどのように作るかというのを考えたほうがいいです。

(事務局)

福祉ボランティアは社会福祉協議会で実施、地域の困りごとは市民連携室へ相談するというように窓口がありますが、イベント実施のボランティアのコーディネートをする窓口は無いです。窓口が無いので、つくるとすればどんな形で作るのがいいのかご意見をいただきたいというのが趣旨です。町会では行事の時に役員しか手伝わないという悩みを解決するために、単発のお手伝い募集というのをやっている町会があります。町会は回覧板で情報発信するツールがあるのでそれで人集めができます

が、今回お話しした団体がそのようなツールがなかったり、あってもSNSだったりすると若い人しか見なくてその若い人達はなかなか参加してくれないというのがあって難しいのかと思います。

(委員からの意見)

一般市民を巻き込んでやるというのは大変だと思います。可能だとすれば大学生や高校生のボランティア募集はどうでしょう。

(委員からの意見)

毎回学生に呼びかけることは難しいので、それこそ登録バンクのようなものがあるのいいと思いますが、どのように運営体制を整えるかがまた課題になると思います。

(委員からの意見)

単純に考えると電子掲示板みたいのがあって、イベント周知とボランティア募集ができる仕組みがあるのいいと思います。その体制を誰がどのように整えていくか、コーディネートしてくれる人をイメージしていかなくてはならないと思います。

(委員からの意見)

ボランティアに頼る、人を集めるということも大事だけど規模も考えなければなりません。最初は自分たちで何でもやれるということでスタートしているのはどの団体も同じだと思うので、規模的なものも考えなくてはならないと思います。協力してくれる人がいつまでも続くとは限らないなかで、同じような活動をしているところは横の連携をとって、ふたつをひとつにして規模を縮小することも大事なのではと思います。まずは自分たちで同じようなことをやっている人や、テーマ替えをして違う団体の人たちと一緒に活動することも考えていかないと継続は難しいのではないかと思います。

(委員からの意見)

全国共通の悩みだといわれていますが、無償ボランティアが厳しいという声が出始めています。有償ボランティア、ある程度の報酬がないと続かないのではと言われています。ですから今回の話しがうまくいったとしても、本当に続いていくのかどうか心配なところがあります。

(事務局)

窓口を設けるとしたら、イベントのボランティア募集も含めた情報発信、ボランティアコーディネーターの配置、何でも相談できる窓口のようなイメージかと思います。現在、このような窓口を設置できないかと市は検討しております。財政的支援ではなく人的支援としてどういった支援があると団体は活動しやすいのか、これから団体を立ち上げたいという相談窓口も含めて、市として支援できることを今後検討していきます。

(米内山委員長)

全体でさらにご意見等ございますか。岩見沢市が明るい活気あるまちづくりということは市民のみなさんも思っていることだと思います。

(委員からの意見)

情報配信モニターの設置の件ですが、最近JRを利用することが多く、改札口にあるモニターを待ち時間に見ることがあります。駅に岩見沢市のモニターを設置することも効果的なのではないでしょうか。

(事務局)

担当部署と検討させていただきます。

(米内山委員長)

他に何かございませんか。本日論議いただきましたボランティアの話は早急な話にはなりません
が、前向きに市の中でも検討も始まっているようなので、何かあればお手伝いしたいと思います。こ
のことは、次年度に向けて検討課題だと思いますのでいつでもご意見は伺います。

4. その他

委員会冒頭にてマイナンバーカード交付に関するパンフレットを配布し、情報提供として担当課よ
り資料に基づいて説明。

(米内山委員長)

全体を通して何かありませんか。今回は以上で終了とさせていただきます。大変長い間ありがと
うございました。

5. 閉会